

# 東部水産漁港部だより

## 令和2年秋・冬号



宮城県東部地方振興事務所水産漁港部  
「みやぎ水産の日」PR広報紙

令和2年12月25日発行

【お問い合わせ先】水産漁港部水産振興班，漁業調整班TEL：0225-95-7914，1473

## 石巻魚市場令和2年秋冬の水揚げ情報（金華さば）

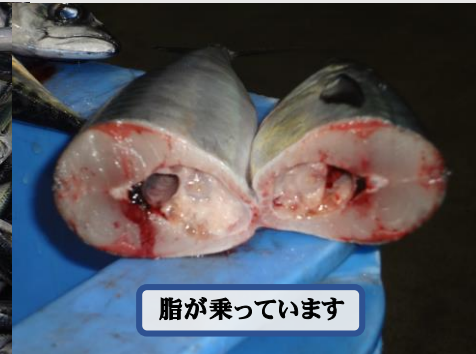
### <金華さばのシーズン到来！>

石巻魚市場は11月18日、「金華さば」のシーズン到来を宣言しました。取材日の12月22日はまき網船5隻により1,015トンの水揚げがありました。市場関係者によると「魚体も大きく、脂乗り抜群のサバだ。」とのことでした。石巻魚市場のサバ類の水揚げ量は市場全体の約46%，金額ベースでは約28%（いずれも令和元年度）を占めています。今後も好漁が続くことを祈念しております。

※『金華さば』とは、秋から冬にかけて金華山周辺海域で定置網，一本釣，まき網によって漁獲された高鮮度で脂のり抜群の大型の「マサバ」だけに与えられるブランド名称です。



水揚げされた金華さば



脂が乗っています



金華さばの水揚げ風景



大きく脂が乗ったものだけが金華さばと呼ばれます

## 今年の振り返りと来年の抱負 ～（株）石巻魚市場佐々木社長～

今年は、新型コロナウイルスにより様々な影響を受け事業継続に今まで以上に力を入れた一年だった。

来年度は、「コロナ禍」の“禍(か)”は“禍(わざわい)”とも読めるので、『禍転じて福となす』ということわざの通り、福が来る一年としたい。全体的には来年度も裾野が広い石巻水産業の中核として地域に貢献していきたい。期待しているのは、「コウナゴ」や「メロウド」の資源回復や不漁が2年続いている「秋鮭」の水揚げの回復。また、安定供給が期待できる「養殖ギンザケ」も出荷を増やしたい。近年の不安定な漁獲を考えると養殖魚の取り扱いも増やさざるをえないかもしれない。陸上養殖についても注目していきたい。

来年度の安全第一での操業と好漁を期待している。





# 女川魚市場令和2年秋冬の水揚げ情報（サンマ・イワシ）

＜女川魚市場がサンマの水揚げ県内第1位となりました！＞

令和2年10月10日から始まった今年度の女川魚市場の「サンマ」水揚げは、12月14日に終了し、5,060tの水揚げとなりました。全国的に水揚げが減少している中、女川魚市場では昨年度の約1.1倍の水揚げとなりました。このことについて木村取締役部長は、「コロナ禍で厳しい状況が続いていたが、女川の買い人が高く買い続けてくれたことが水揚げの増加につながった。」と話しています。今年は気仙沼魚市場の水揚げを抜き、宮城県内第1位、本州では大船渡に次ぐ第2位の水揚げとなりました。



初水揚げはまだ暗い中行われました



昨年より5日遅い初水揚げでした



多くの買受人の方々と賑わいました

＜サンマ船の試験操業によるマイワシの水揚げが行われました＞

令和2年12月23日、サンマ漁船による「マイワシ」の初水揚げがありました。これは、近年の「サンマ」の不漁に対し、棒受け網を用いて「マイワシ」漁ができないか試験操業を行っているもので、令和3年1月まで実施する予定です。初日となった当日は、4隻の船により73tの水揚げがありました。体重100gを超える「マイワシ」が多く水揚げされ、滑り出しは好調と思われま



さんま棒受け網船によるマイワシ水揚げ



身は大きく、脂がのっています



4隻で73tを水揚げしました

## 今年の振り返りと来年の抱負～（株）女川魚市場木村取締役部長～

今年は、前半はあまり振るわなかったものの、9、10月頃の巻き網船の道東イワシが今までにない位水揚げされ、その流れでサンマに移行できた。サンマは他の漁港で軒並み前年割れの中、当魚市場では水揚量が昨年比1.1倍、金額では1.77倍となった。これも買受人の努力があってのもの。

また、12月には巻き網のサバに加えて、棒受け網によるイワシの試験操業も始まっている。今後の水揚げに期待したい。

来年はどのような状況になるのか、なかなか読めない。現時点で量販などに向けた加工原料の需要は伸びているが、生鮮での出荷は落ち込んでいる。新型コロナウイルスの影響が落ち着けば、経済は回ってくると思うので、よい方向に動くように期待したい。



### ○編集後記

長らく発行できず、誠に申し訳ございません。今回から水産漁港部だよりをリニューアルいたしました。今後は季刊発行に変更となります。水揚げ情報や管内加工業の情報などを旬の季節に合わせてお届けしたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。  
(K.T)